【資料2】

令和6年度　地域包括支援センターの認知症施策に関する取り組み

	目　標	具体的な取り組み		実績	評価	課題・今後の方向性
第一	認知症にやさしい地域づくりを目指します。	様々な世代の認知症サポーターを養成する。	認知症サポーター養成講座の開催：年５回	年９回実施（島田樟誠高校、第二民児協）	◎	新しい認知症観の普及に向けて、「認知症よくわかるた」を活用していく。
		認知症について学んだり、認知症の人やその家族が参加できる場所づくりについて検討していく。	チームオレンジしまいち連絡会：年４回 多機関と協働したオレンジカフェ開催：随時	チームオレンジ連絡会：年４回開催見込み（11/1、11/18実施済み） オレンジカフェ：年２回開催（アポロン中溝さんなか＋カフェ）	○	
第二	認知症の理解を促進し、誰もが安心して暮らすことのできる町づくりを整備していきます。	チームオレンジ「きずな」と共同で認知症カフェの実施について検討をする。	キャラバンメイト連絡会を年２回開催予定。 ①顔合わせ及び現状報告（キャラバンメイト及びチームオレンジ「きずな」） ②チームオレンジ「きずな」と包括協働で、認知症カフェの実施について検討する。	チームオレンジの活動だがメンバーの本業が忙しくなり活動休止状態になっている。 集まること自体も難しくなってきたため年1回に開催回数を変更した。	△	新たなキャラバンメイトやチームオレンジの担い手を見つけていく必要がある。
		認知症を正しく理解してもらうために、教育機関や企業、福祉事業所などに働きかけ、認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年４回実施する。	第二中学校区の教育機関や企業、福祉事業所などに講座案内を配布するとともに、認知症サポーター養成講座を年４回実施する。	認知症サポーター養成講座の案内は教育機関や銀行やスーパーの配布した。認知症サポーター養成講座は2回開催済み。	△	学校自体が認知症に特化した福祉教育をしなくなっている。今後は学校側に高齢者の課題をアピールし認知症の理解を知っていただく必要性がある。

六合	地域で認知症の方を支えられるような体制を構築する。	多世代に認知症を正しく理解してもらい、支援者を増やしていく。	①認知症サポーター養成講座の開催（六合小、六合東小、六合中、企業、金融機関） ②チームオレンジ連絡会（2回） ③認知症カフェ開催（年12回）	①六合東小（11月）、六合中（5月）に実施。六合小は学校の都合により開催困難の為、未実施。 ②5月、10月に実施した。 ③計画的に毎月実施した。	○	①企業、金融機関は包括の紹介を兼ねて認サポの説明を行い、打診する。高校は３学期に実施する予定。 ②地域のサポーターが連絡会に参加できるよう模索する。 ③参加者も多く定着している。今後は他地区でも開催できるよう検討する。
初倉	多世代に認知症の理解と対応を周知します。	チームオレンジの活動を支援し、様々な世代の認知症サポーターを養成します。	①チームオレンジ連絡会(年6回) ②認知症サポーター養成講座(初倉小・初倉南小・初倉中学・南原地域住民・企業)	①予定通り行った。 ②小学校2校で実施。他の学校・機関は今年度は未実施。	△	中学、企業は断りがあり実施できなかった。次年度は地域での開催を検討したい。
		認知症の相談や学習が気軽にできる場所を作ります。	①つながる広場くらら(こども食堂)開催時に相談ブースを設ける(月1回) ②はつくらカフェ(年4回)	①ブースは毎月設けたが相談件数は0件、子ども食堂との連携方法も見直しを行った。 ②はつくらカフェ３回実施	△	認知症カフェの実施目標を包括内やチームオレンジと明確化し足並みを揃えて実施していきたい。

金谷	認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活ができるようにサポート体制を整えていきます	若い世代をはじめ様々な世代に認知症の基礎知識と理解を深め地域で見守る体制をつくる	認知症サポータ養成講座【年5回】企業、金谷中学校、金谷・五和小学校など	①1回【五和小】	△	開催についての呼びかけはしたが、実績にはつながらず。特に若い世代への周知活動や開催に呼びかけを強化していく
		ひなたぼっこカフェの周知を図りチーム茶っきり、認知症サポーターが活動できる場を広めていきひなたぼっこカフェの定着を目指す	①チーム茶っきり連絡会【年2回】 ②ひなたぼっこカフェの定期開催	①2回（4月9月） ②毎月実施	○	チームちゃっきりと協力しながら認知症カフエの開催ができた。新参加者がいないのが課題。引き続き周知活動をしていく
		認知症予防として認知症の方も含め自分の役割をみつけ社会参加できる場をつくる	かなうぇるで季節に応じた花壇づくりや野菜作りの実施	①実施【あさがお・ひまわり】	○	認知症予防として認知症の方も自分の特技を生かし社会貢献できる機会を作っていく。
川根	認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活ができるようにサポート体制を整えていきます	様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げ、地域の担い手づくりに取り組む。	①川根小学校・中学校、企業にて共に行う認知症予防活動の啓発を行う。 ②認知症予防講座：年３回	11/14川根小学校にて福祉講座実施。企業向けにVR認知症体験会を開催予定。	○	MCI対策と介護予防を一体的に啓発していく。
		MCI（初期認知症状）の方に対し、しまトレや機能訓練を通じた認知症予防の習慣を定着させる。	①川根地区医療・介護多職種連携連絡会：年１回（１/全3回）医療職から啓発できるように情報共有。 ②しまトレや短期集中運動機能教室への参加呼びかけ。	①連絡会が他内容で開催の為介護予防については未実施。 ②地域クリニックがしまトレ会場開設。参加につながっている。	○	
		認知症カフェや運営推進会議にて、認知症に関する相談支援や課題把握を行う。	①認知症カフェ：開催時 ②運営推進会議：年１２回 ③認知症キャラバンメイト連絡会：年１回	開催時には参加を行なっている。	○	運営推進会議において、施設の職員は認知症のプロという自覚が持てる関りができるよう意見していく。